

## ◆基本目標に係る評価概要

基本目標 1	子どもを生き育てやすいまちへ
<p>数値目標である「子育て施策への市民満足度」は基準値を下回り、評価を「遅延」としましたが、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を提供する「子育て世代包括支援センター（ネウボラのぼりべつ）」の設置、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている子育て世帯への支援及び保育所や児童厚生施設等を安心して利用できるような感染症対策事業など、子育て施策に資する取組を進めてきました。今後は妊娠期から出産・子育てまで一貫して身近で相談に応じ、様々なニーズに即した必要な支援に繋ぐ伴走型相談支援の充実を図る取組や保育所の民営化による新たな認定こども園の設置など、子育て施策への市民満足度の向上に繋がる取組を推進します。</p> <p>各 KPI について、「子ども支援拠点数」と「全国体力運動能力調査（小学生）20m ショットランの T 得点の全国平均を上回る」は目標値を上回り、評価を「達成」としました。</p> <p>「都市公園の遊具健全度」については、登別市公園施設長寿命化計画に基づき年次的な整備を図ることにより、基準値から目標値に近づいたため、評価を「進展」としました。</p> <p>「子ども支援拠点数等の利用者数（延べ）」は利用者数は増加傾向にあるものの基準値を下回り、評価を「遅延」としました。コロナの影響による時間を区切った利用人数の制限を設けたことなどが要因と考えておりますが、子育て中の保護者や未就学児を対象とした動画の配信など、コロナ禍においても可能な子育て家庭に対する支援を確保する取組を実施しました。</p> <p>「一斉学校公開日の来校者に占める地域住民の割合」については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、実施を中止としたため実績値は「－」としています。</p>	
基本目標 2	安心して老いを迎えることができるまちへ
<p>数値目標である「高齢者施策への市民満足度」は基準値を上回り、評価を「進展」としましたが、KPI の「老後に不安を持っている人の割合」については基準値を下回りました。</p> <p>高齢者に対して保健事業と介護予防を一体的に実施し、フレイル予防や重症化予防等に取り組むなど、高齢者施策に資する取組を進めてきました。老後に不安を持っている要因として「自分の健康維持に関すること」や「介護サービスが利用できるか不安」と回答した割合が多いことから、若い世代からの各種健（検）診の受診機会の提供を含めた保健事業の推進や、「登別市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画」に基づき、将来的に介護が必要となったすべての方が等しく介護保険サービスを受けられるよう取り組みを推進します。</p> <p>各 KPI について、「生活困窮者自立支援法に基づく相談件数」と「特定健康診査の受診率」については、基準値から目標値に近づいたため、評価を「進展」としました。引き続き、生活困窮者の早期把握及び自立した生活を確保する支援の実施や特定健診の受診率向上を図ることとします。</p>	

「図書館を利用した市民の割合」については、基準値を下回り、評価を「遅延」としました。引き続き、図書館が身近になるよう、魅力や有用性などを積極的に発信・周知することや乳幼児から本にふれる機会を提供するなど、読書意欲の向上及び図書館の利用促進を図ることとします。

<b>基本目標 3</b>	各産業が元気に展開されるまちへ
---------------	-----------------

数値目標である「基本計画第3章（観光経済）の市民満足度」は目標値を下回りましたが、基準値を上回り、評価を「進展」としました。

令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったことから、市内企業等の事業活動を支援する取組や市内消費を喚起し、市内経済の回復を図ることを目的とした「赤鬼・青鬼チケット発行事業」の実施など、事業者支援及び市内経済の活性化に資する取組を進めてきました。今後は第3章で最も重要と考えられる項目が「雇用・就業」であったことから、雇用の安定と快適な就業環境づくりをより一層推進していく必要があるものと考えています。

各 KPI について、「有効求人倍率」については、目標値を上回り、評価を「達成」としました。

「観光入込客数」については、新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に緩和され、令和3年度と比較すると約2倍の入込客数となっており、回復傾向にありますが、結果として基準値を下回り、評価を「遅延」としました。今後はアフターコロナを見据え、多様化する観光客ニーズに対応した魅力ある観光地づくりを進めることに加え、インバウンドの回復を見越した誘客事業などを進めることとします。

「乳牛1頭当たりの生産乳量」については、目標値を下回りましたが、基準値を上回り、評価を「進展」としました。引き続き、乳質の向上と生産乳量の高い優良牛の確保を図ることとします。

<b>基本目標 4</b>	観光地としての魅力を高め選択されるまちへ
---------------	----------------------

数値目標である「観光施策の市民満足度」は基準値を下回りましたが、今後は、新たに整備した「登別市観光交流センター」を拠点とした、アイヌ関連事業や観光イベントの実施等による更なる賑わい創出に努めるなど、魅力ある観光地づくりを推進します。

各 KPI について、「観光入込客数」については、新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に緩和され、令和3年度と比較すると約2倍の入込客数となっており、回復傾向にありますが、結果として基準値を下回り、評価を「遅延」としました。今後はアフターコロナを見据え、多様化する観光客ニーズに対応した魅力ある観光地づくりを進めることに加え、インバウンドの回復を見越した誘客事業などを進めることとします。

「歴史文化施設入館者数」については、増加傾向にあるものの基準値を下回り、評価を「遅延」としました。引き続き、郷土に対する理解を深めるとともにイベント等の実施や常設展示の更新を行い、市民の文化活動の推進を図ることとします。

**基本目標 5****移住・定住・応援したいまちへ**

数値目標である「ちょっと暮らし（体験移住者）」と KPI である「移住ワンストップ窓口への相談者数」は基準値を下回りましたが、自然豊かで美しい景色のある地方への移住に関心をもつ方やテレワークで仕事をする方が増えてきており、地方移住に関する相談やちょっと暮らし（体験移住者）に関する問い合わせが増えてきています。

今後は令和 4 年度から本市に着任している地域おこし協力隊（関係人口コミュニティマネージャー）と連携を図りながら、移住ポータルサイト「のぼりべつで楽住」の市内企業からのメッセージページの拡充や、都市圏での移住相談会やオンライン移住相談会などへの参加を通して本市の魅力を発信していきます。

各 KPI について、「姉妹都市（四五都市を含む）都市間交流人数」については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により実施できなかった交流事業も徐々に再開し、交流人数の推移も増加していますが、基準値を下回り、評価を「遅延」としました。

「国際理解講座への参加者数」については、市内の中学校を対象に国際理解講座を開催することができたため、目標値を大きく上回り、評価を「達成」としました。引き続き、国際理解を深めるための充実した講座を実施するとともに市民向けとしてアーカイブ配信等の実施を検討することとします。